# 2022年度 第2四半期(2022年9月期) 決算の概要

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て





1. 2022年9月期決算トピックス	P. 1
本業収益·中間純利益	P. 2
預 金(NCDを含む)・預かり資産	P. 3
貸 出(私募債含む)	P. 4
2. 2022年9月期決算の概要	P. 5
2022年9月期の実績	P. 6
預 金(NCDを含む)・預かり資産	P. 7
貸 出(私募債含む)	P. 8
有価証券	P. 9
健全性	P. 10
2022年度(2023年3月期)の決算予想	P. 11
3. SBIグループとの連携	P. 12
SBIグループとの主な業務提携一覧	P. 13
4. 本業支援施策	P. 14
本業支援・資産形成支援施策	P. 15
5. 2022年度の主な取組み(100周年記念事業)	P. 20
ATMの設置のお知らせ	P. 26
6. 当行のプロフィール	P. 27

# 1. 2022年9月期決算トピックス

(同▲18)

3,798

22/9

3,830 3,817

20/9

コスト削減策により物件費が減少、

21/9

18/9 19/9

営業経費削減



相場環境により投資信託販売、金融

20/9 21/9

22/9

19/9

商品仲介手数料が減少

18/9

が増加

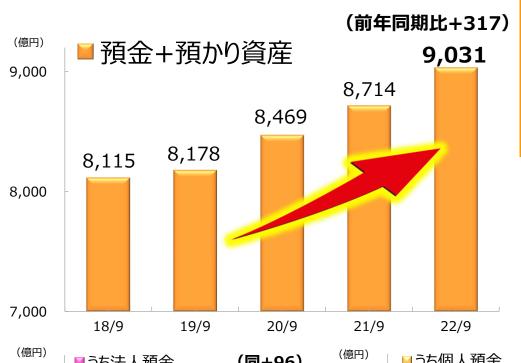
19/9

20/9

消費性ローンの増加により貸出金利息

21/9

22/9



預金+預かり資産の残高は 9,031億円(前年度比+317 **億円増加**) と、**法人預金**を中心に 増加

- 法人預金は、同+96億円増加し、 過去最高を更新
- 個人預金は、同+6億円増加
- 預かり資産は、同▲2億円減少

500







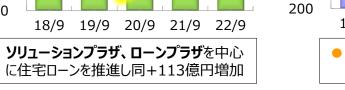


# 総貸出残高は、6,231億円 (前年度比+145億円増加) 私募債や住宅ローンを中心に増加

営業店事業性貸出残高は、同+31億円と、寄付型の私募債など事業者への積極的な対応により過去最高を更新









インターネットを有効活用により、 消費者ローンが増加

# 2. 2022年9月期決算の概要

### 2022年9月期の実績

9



#### 単 体

(百万円) 前年同期比 22/9 21/9 5,295 経常収益 (①+⑦) 5,255 **▲**40 業務収益① **▲**87 5,114 5,202 貸出金利息 3,371 3,362 有価証券利息配当金⑦ 358 **▲**23 334 (A)投信解約益 受入手数料 1,311 1,420 **▲**108 国債等債券売却益②分 2 **▲**2 業務費用③ 4,486 4,607 **▲**121 一般貸倒引当金繰入④ **▲25** 125 **▲**150 国債等債券売却損・償還損・償却⑤の 56 51 10 11 3,798 3,817 営業経費 **▲**18 12 人件費 1,781 1,770 11 13 物件費 1,738 ▲29 1,767 業務純益⑥ (①-③ (金銭の信託見合費用除く)) 628 594 34 (B) コア業務純益 { 6-(2-5)+4} 659 722 **▲**62 16 本業収益 (投信解約損益除<コア業務純益) (B)-(A) 659 722 **▲**62 臨時収益⑦ 93 17 140 46 株式等売却益田 18 33 21 11 19 償却債権取立益 238 45 臨時費用® 284 20 個別引当金繰入額 192 19 21 211 株式等売却損・償却分 0 臨時損益⑨ (⑦-⑧) **▲**144 **▲143** 35 経常利益(⑥+⑨) 484 449 特別損益 **▲**0 19 **▲**20 390 中間純利益 391 不良債権処理費用 187 317 **▲**129 有価証券関係損益(ア+分-ウ+エーオ) 278 **▲**76 354

#### 22年9月期 損益状況

#### 22年9月期は減収増益

本業収益は減少したものの、中間純利益は微増 安定した黒字を確保した

#### 業務収益は5,114百万円。前年同期比▲87百万円の減収

- ・貸出金利息は、貸出金利回りが同0.014%低下したものの、 平残が8,301百万円増加し、同+9百万円
- ・ 有価証券利息配当金は平残が13,618百万円増加したが、利回り が同0.071%低下したことから同▲23百万円
- ・受入手数料は、投信販売手数料、金融仲介手数料、為替手数料 の減少などにより同▲108百万円

#### 業務費用は4,486百万円と、同▲121百万円の減少

- ・一般貸倒引当金繰入は、予想損失率の低下などにより、 同▲150百万円
- ・営業経費は経費削減による物件費の減少などにより 同▲18百万円
- コア業務純益及び本業収益は659百万(同▲62百万円)と ともに黒字を確保した
- 経常利益は484百万円、中間純利益は391百万円とともに増益
- 受入手数料(同▲108百万円)及び有価証券利息配当金 (同▲23百万円)の減少などにより、経常収益は同▲40百万円 の減収も、営業経費(同▲18百万円)及び一般貸倒引当金 繰入(同▲150百万円)の減少により、中間純利益は 同+1百万円の増益となった

【無断転載禁止】

# 預 金(NCDを含む)・預かり資産



- 預金と預かり資産を合わせた残高は、前年同期比317億円増加し、9,031億円
  - ・ うち預金残高は、319億円増加し、8,075億円。預かり資産残高は、▲2億円減少し、955億円
- 預かり資産の販売額は、投信が同▲44億円減少、保険は同5億円の増加
- 預かり資産の販売手数料は、投信販売手数料などの減少により同▲1.5億円減少し、4.4億円

#### 預金+預かり資産の残高推移

(億円) 22/9 19/9 20/9 21/9 前年同期比 金 預 7,288 7,610 7,756 8,075 319 5,048 個 人 4,902 4,989 5,042 6 2,225 2,322 法人 1,837 2,084 96 地公体 478 493 452 621 169 957 955 預かり資産 890 859 **A**2 388 397 投 信 399 330 9 保 険 456 499 544 535 **4**9 公共債 35 29 24 22 **A**2 計 9,031 合 8,178 8,469 8,714 317

#### 預かり資産 販売額推移

(億円) |20/上期||20/下期||21/上期||21/下期<mark>||**22/上期**|</mark> 同期比 投 信 62 90 108 119 74 **4**44 38 35 41 保険 57 54 5 公共債  $\mathbf{A}0$ 1 0 155 117 計 121 163 130 **▲**38

#### 預かり資産販売手数料推移

(※SBIマネープラザ手数料を含む) (億円) 20/上期 20/下期 21/上期 21/下期 **22/上期** 前年 同期比 合計 4.8 6.5 6.0 5.4 **4.4** ▲1.5

【無断転載禁止】

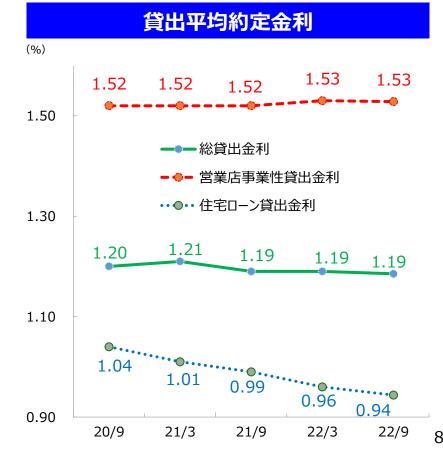
# 貸 出(私募債含む)



- 貸出残高(私募債含む)は、6,231億円。前年同期比145億円の増加
  - ・事業性貸出(私募債含む)は、私募債起債額の増加により、同38億円の増加 私募債は、22年上期に61件(45億円)受託し、同46億円の増加
  - ・消費性貸出については、住宅ローン実行の増加により、同109億円の増加
  - ・事業性融資先数は中期経営計画の最終年度数値目標6,000先に対し、22年9月末時点で5,560先で推移
- 貸出平均約定金利は、住宅ローン貸出金利が0.94%と低下し、総貸出金利は1.19%と横ばい推移

員出 残局推移						
(億円)						
	19/9	20/9	21/9	22/9	前年同期比	
事業性	2,259	2,852	3,064	3,103	38	
営業店	1,796	2,112	2,280	2,264	<b>▲</b> 15	
私募債	190	312	383	430	46	
本 部	272	427	400	407	7	
消費性	1,853	1,967	2,059	2,168	109	
住宅ローン	1,550	1,682	1,785	1,898	113	
消費者ローン	233	225	220	221	0	
消費性その他	69	59	53	48	<b>\$</b> 5	
地公体	1,004	888	832	837	5	
その他	153	154	129	122	<b>▲</b> 7	
合 計	5,270	5,863	6,086	6,231	145	
平残	5,179	5,692	5,982	6,115	133	
事業性融資先数	5,007	5,410	5,600	5,560	<b>▲</b> 40	

岱山 硅古世段



# 有価証券



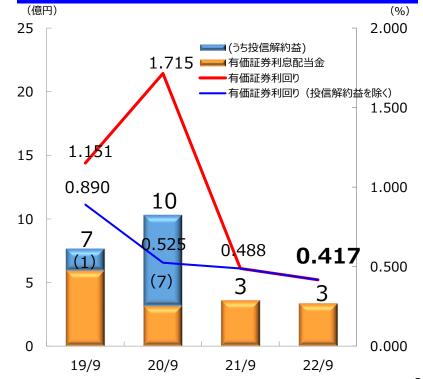
- 有価証券の残高は1,553億円(前年同期比+71億円の増加)
  - ・債券中心の元本毀損リスクの低いインカム運用方針のもと、国内債が増加
- 有価証券の評価損益は▲68億円(同▲70億円の悪化)
  - ・金利上昇により保有している債券等の評価損が拡大
  - ・ただし、投資対象は高格付けの国債や地方債等中心で元本毀損リスクは極めて低い
  - ・SBIグループと引き続き連携し、有価証券ポートフォリオの状況や課題を共有し健全化に努める
- 債券のデュレーションは9.3年(同▲0.3年の短期化)

<del></del>	TET M	74 mg	1410
<b>Y</b> ≣Y	西証券	残高	任存

(億円)

	19/9	20/9	21/9	22/9	前年同期比
債 券	723	654	774	896	121
国内債	678	617	751	873	121
外国債	45	36	23	22	▲0
投資信託	514	671	672	616	<b>▲</b> 55
外債型	169	671	672	616	<b>▲</b> 55
株式型	189	1	1	1	_
その他	155	_	_	_	_
株式	39	22	21	20	▲0
その他	12	14	13	20	6
合 計	1,290	1,363	1,481	1,553	71
保有有価証券の 評価損益	▲13	1	2	<b>▲</b> 68	<b>▲</b> 70
債券の デュレーション(年)	7.5	9.7	9.7	9.3	▲0.3

### 有価証券利息配当金と有価証券利回り

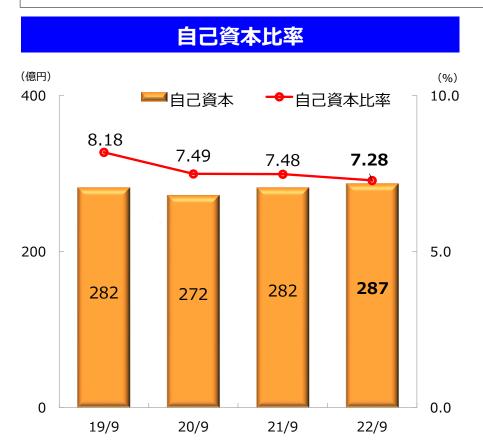


# 健全性



(億円)

- 自己資本比率は、貸出資産の増加により7.28%(前年同期比▲0.20%)減少としたものの、 国内基準(4%以上)を上回る水準を維持。連結自己資本比率は7.71%
- 金融再生法開示債権は、122億円(同+9億円)金融再生法開示債権比率は、1.95%(同+0.11%)と低水準を維持
- 与信関連費用は、1.8億円(同▲1.2億円減少)





#### 与信関連費用

(※) 一般貸倒引当金繰入額+個別貸倒引当金繰入額 +貸出金償却等-貸倒引当金戻入額

19/9	20/9	21/9	22/9	前年同期比
<b>▲</b> 1.2	3.7	3.1	1.8	<b>▲</b> 1.2

【無断転載禁止】

# 2022年度(2023年3月期)の決算予想



- 2022年度(2023年3月期)は、単体で当期純利益 7億円を見込んでおります。
  - ・貸出金利息、受入手数料の確保、および経費の削減により利益を確保いたします。
- 2022年度(2023年3月期)の配当は、1株あたり5円を予定しています。
- 2022年11月4日に2022年9月期の業績予想を上方修正いたしました。

#### 2022年度(2023年3月期)決算予想

(億円)

					21/3月期 実 績	22/3月期 実 績	23/3月期 予 想
w	経	常	収	益	111	107	107
単	経	常	利	益	<b>▲</b> 17	7	8
体	当	期	純 利	益	<b>▲</b> 17	8	7
	経	常	収	益	133	131	129
連	経	常	利	益	<b>▲</b> 17	7	9
結	親会		E に 帰 属 純 利	す る 益	▲17	8	7

# 3. SBIグループとの連携

# SBIグループとの主な業務提携一覧



	利便性向上 AI導入	● AI プラットフォーム『DataRobot』で開発したAIの導入	AIでビックデータを分析することにより、お客さま一人ひとりのニーズに 沿った金融商品の紹介をするなど営業を高度化
個	資産形成	● 共同店舗「福島銀行SBIマネープラザ郡山」の運営	ネット証券最大手であるSBI証券の金融商品・サービスを、対面に よる質の高いアドバイスと共に利用可能
人	利便性向上 DX導入	<ul><li>バンキングアプリの提供</li></ul>	アプリでの口座開設(来店不要、印鑑不要、通帳レス)や、家計 簿アプリ「一生通帳by Moneytree」を提供
	利便性向上 DX導入	<ul><li>住信SBIネット銀行の『ミスター住宅ローンREAL』および 『フラット35』の提供</li></ul>	当行ホームページから、住信SBIネット銀行の住宅ローンの各種申 込手続等がWEB上で利用可能
個人	補償の充実 低コスト	● SBI損保の「自動車保険」「火災保険」の提供	WEBで完結する「自動車保険」や、住宅ローンのお客さまが必要な補償を自由に選べる「火災保険」を提供
· 法 人	補償の充実	● 住宅ローンおよび各種ローンに団体信用生命保険を付保	住宅ローンのほか、事業者、医療従事者および個人向けの各種ローンに団信を付保し、万が一の時に備えた安心を提供
	サービス充実	● 新生銀行との連携によるサービスの充実	新生銀行の有するサービス・金融商品・投融資を活用すること により、社会・お客さまへの高度なサービスを提供
	本業支援	<ul><li>吉本興業ホールディングスと「お客さま紹介」で連携し地方創生に貢献</li></ul>	福島県住みます芸人「ぺんぎんナッツ」さんと、地方創生をコンセプトにする「BSよしもと」の番組を通して、福島県の魅力やお取引先の事業活動・サービス・商品等を全国に情報発信
法	本業支援 <b>DX支援</b>	● 『 ふくぎんビジネスマッチングシステム 』(ふくぎんBMS)の提供	お取引先のビジネスマッチングニーズ等を登録・データベース化し、高精度で成約確度の高い販路開拓や事業課題の解決等を実現
人	業務効率化 DX支援	● クラウド型ワークフローシステム「承認Time」、 「経費Bank II」、および「勤怠Reco」の提供	社内のあらゆる書類の申請、承認、回覧、保管を電子承認フロー に載せられるクラウド型ワークフローシステムを提供
	利便性向上	● SBIレミットの海外送金サービスの提供	地域企業が抱える外国人労働者のために、簡単で利便性の高い 海外送金サービスを提供
	人材支援 <b>DX支援</b>	● スキマバイトサービス「タイミー」の提供	アルバイト人材が必要な企業と、働きたい人の時間をスマホアプリで マッチングさせ多様な雇用形態を支援

# 4. 本業支援施策

# ~ 法人のお客さまへの本業支援サービス ~ 本部組織改編、法人支援のプロ集団!法人コンサルティング室開設!

# 法人コンサルティング室とは

2022年6月に本部法人支援課内に法人コンサルティング室を新設、ビジネスマッチングシステム「ふくぎんBMS」や「事業計画策定支援」を中心に、事業承継・M&A・オペリース・法人保険等様々なお客さまの課題解決に取組みます。

#### ふくぎんBMSとは

・ SBIが出資するリンカーズ社のビジネスマッチングシステム。お客さまの「ビジネスマッチングニーズ」を登録し、広域に配信することで、より成約精度の高いビジネスマッチングが実現

#### ● 事業計画策定支援とは

・コロナ禍におけるお客さまの課題解決や本業支援改善に向けた計画を共に策定し、課題解決に資する商品やサービスをSBIとの連携によるリソース等を活用し、本業を伴走支援する取組み

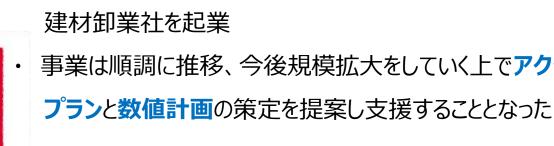


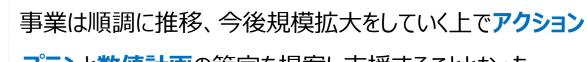
# 計画策定事例

●創業2期目の建材卸業A社のケース



課題







#### 法人コンサルティング室に相談!

解決策



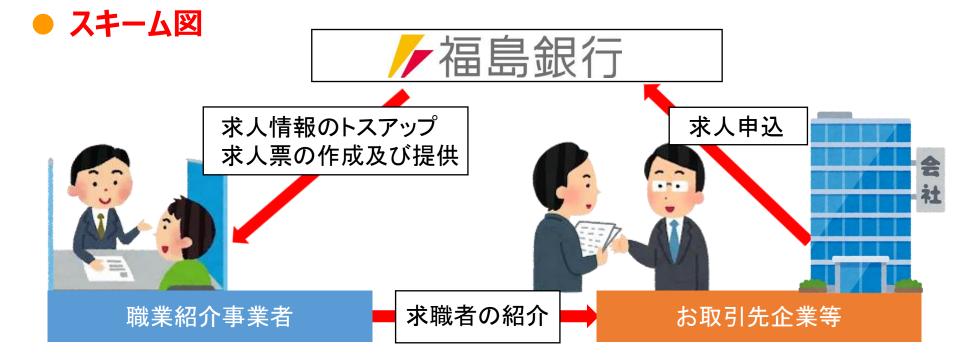
- 法人コンサルティング室が訪問し、今後の展開をヒアリング
- 規模拡大のためには、①売上拡大施策②従業員の増加
  - ③資材置き場の確保④資金調達が必要と判明!
- 採用に伴う助成金・資材置き場候補の紹介!具体的な目標 もできて規模拡大に向けてプランが明確になった!

16 【無断転載禁止】

# ~ 法人のお客さまへの本業支援サービス ~ 「**有料職業紹介事業**」の許可取得により人材紹介業務を開始!

# ● 人材紹介業務

近年、地域企業における人材不足が深刻化しており、人材の確保が喫緊の経営課題となっています。福島銀行はお客様の課題を解決するべく、2022年4月より「有料職業紹介事業」の許可を取得しました。求人票作成により求人情報を蓄積、マッチング実績に繋がっております。



# 人材紹介事例

● 文房具店を営むB社のケース



- ・文房具需要の低迷により売上減少
- 当社のオーダーメイドの万年筆は海外で需要が見込める
  - 海外販路拡大するべく、ECサイトを強化するためITに強い 人材を探していた



#### 法人コンサルティング室に相談!

# 解決策



- ・ 法人コンサルティング室が訪問し、求人情報をヒアリング!
- ・ **求人票作成**し、ITに強い人材を人材紹介会社に紹介依頼!
- ・ 適合する人材が見つかり、面接後に採用!
- ・ 今後ECサイトで**海外販路拡大**を見通せるようになった!

18

#### ~法人・個人のお客さまへのサービス向上の取組み~

サービスカ向上のため法人・個人の全店ロールプレイング大会を実施!

# 全店ロールプレイング大会

お客さまの課題解決や資産形成のサポート力向上のため全店ロールプレイング大会を実施しました。 各地区予選会を経て代表となった12名(法人担当6名、個人担当6名)で決勝戦を行い、 プレゼン能力の向上を図りました。







吉本興業のぺんぎんナッツ様と集合写真





# 5. 2022年度の主な取組み





## 100周年記念『ふくぎん10の感謝』

福島銀行はおかげさまで2022年11月27日に 創業100周年を迎えます。

これは当行に関わっていただいたすべての方の ご支援の賜物であり、これまでの感謝の気持ちを こめて2021年から100周年記念事業「ふくぎん 10の感謝」を展開しております。

#### 2022年度現在実施内容

- 4 .「公益信託 福島銀行 ふるさと自然環境基金」 拡大版の実施
- 6 .福島県産品などが当たるくじ付き定期預金を 通して福祉関連団体などへ寄付
- 8 .福島の子ども応援新助成金の制定
- 9 .100周年記念講演会「福島の未来」を県内 4地区にて開催
- 10 . 「ふくぎん100年のありがとう物語」発行







### 100周年記念定期預金「わくわくくじら」

創業100周年記念事業の一環として、地元への感謝の 気持ちを込めてご提供する定期預金です。

#### ふくしま応援定期預金「わくわくくじら」

(取扱期間:2021年10月1日~2022年3月31日) 2022年3月31日時点、目標100億円を大きく上回る194億円の預け入れをいただき、「特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会」に寄付を行いました。

#### ふくぎん子ども未来定期預金「わくわくくじら」

(取扱期間:2022年4月1日~2022年9月30日) 100周年定期預金第2弾を取り扱い開始いたしました。 2022年9月30日時点残高の一定割合を東日本大震災ふくしま 子供寄付金(福島県)へ寄付いたします。



寄贈式の様子 (特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会)







### 100周年記念式典

100周年を迎えるにあたり、今まで支えていただいた皆さまに感謝を伝える記念式典を開催いたしました。

当行100周年を振り返る動画上映や、 寄附金・助成金の授与式、従業員代表 による決意表明等を行いました。





#### ● 東日本大震災ふくしまこども寄附金

東日本大震災による震災孤児等への 支援のため2011年12月28日に基金が設立。 100周年記念商品の残高等に応じて 福島銀行グループとして300万円を寄付いたしました。

### ● 公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金

福島県における自然環境の保全を図り自然と人間の調和のとれた社会づくりに資することを目的に1992年に設立されました。

毎年助成を行っており今年で31回目。 本年度は13団体へ総額300万円を助成いたしました。



福島県保健福祉部こども未来局様へ寄附金授与



NPO法人野鳥の会ふくしま様へ助成金授与

# 2022年度の主な取組み(100周年記念事業) ぶきん 10 感謝



#### 100周年記念講演会

100周年記念講演会を「福島の未来」というテーマで県内4地区開催。10月15日に福島市、

10月22日に会津若松市にて開催いたしました。11月12日にはいわき市、11月19日には郡山市で開催します。



福島地区講演会

(講師:株式会社新生銀行取締役会長 五味廣文氏)





会津地区講演会

(講師:フューチャーアーキテクト株式会社代表取締役社長 神宮由紀氏)







#### ● 第11回 障がい者施設製品大展示即売会

障がいをお持ちの方々の自立をサポートすることを 目的に、例年県内の授産施設約90事業所が参加 ・出展され、本店地下大ホールにて大展示即売会 を開催してきました。

今年も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染 症拡大防止の観点から「カタログ販売」(11/14~ 12/13)で実施いたします。

クッキーやお煎餅、キーホルダー、小物革製品など 県内50事業所の手作り商品を詰め合わせした 「お楽しみ袋」は大変多くのお客さま・お取引先に ご購入いただき、授産施設事業の活動を支援に 繋がっております。



#### ● 福島市AXCビル内にATMを設置いたします。

お客さまの利便性向上のため、福島駅東口中心地に位置するAXCビルに当行ATMを設置いたします。



福島市東口中心地に位置するAXCビル





設置イメージ

## 6. 当行のプロフィール



【2022年9月末現在】

本社所在地 福島県福島市万世町2番5号

電話番号 024-525-2525 (代表)

設立年月日 1922 (大正11) 年11月27日

資本金 186億円

株主数 13,538名

従業員数 626名(うち正社員468名)

店舗数 57店舗(5出張所、2ソリューションプラザ、

10-ンプラザ、1ネット支店含む)

預金残高 8,075億円

預かり資産 955億円

貸出金残高 6,231億円(私募債含む)

自己資本比率 7.28% (単体)、7.71% (連結)

金融再生法

開示債権比率 1.95%

連結子会社 ㈱ふくぎんリース&クレジット(2021年4月1日合併)

(株)東北バンキングシステムズ

福活ファンド投資事業有限責任組合

(お問い合わせ先) 株式会社福島銀行総合企画部 猪股徹也、金成洋輔 TEL:024(525)2525 FAX:024(536)5338

本資料には、将来の業績および計画等に関する記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績に影響を与える不確実な要因によって将来実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。また、事業戦略や業績など、将来の見通しに関する事項には、一定のリスクや不確実性等が含まれております。

27